

令和８年度第１回東海市観光ビジョン推進委員会 議事録

１ 日 時

令和８年（２０２６年）８月２０日（木）午後２時から午後３時３０分まで

２ 場 所

東海市役所 ６０３会議室（６階）

３ 出席者

（１）委員（敬称略）

中野 佳彦、芦木 浩隆、高谷 周一、西本 賢史、遠藤 秀紀、伊藤 春子

（２）オブザーバー（敬称略）

鈴木 麻友美

（３）事務局

東海市役所：河田 環境経済部長、芦原 商工労政課長、

佐藤 商工労政課統括主任、小野 商工労政課主任

東海市観光協会：野口 事務局長

４ 欠席者（敬称略）

佐野 安信、吉村 輝彦、榊原 栄一、高橋 寿征

５ 議 題

別紙次第のとおり

６ 公開、非公開の別

公開

７ 傍聴者の数

０人

８ 会議内容

（１）あいさつ【次第 １】

河田環境経済部長からあいさつを行った。

（２）自己紹介【次第 ２】

委員・事務局の順に自己紹介を行った。

（３）委員長・副委員長選出【次第 ３】

高谷委員から遠藤委員を委員長、伊藤委員を副委員長にとの推薦があり、承認

を受け決定した。

(4) 議題・意見交換【次第 4－5】

ア 観光の現状について【次第 4(1)】

小野主任から資料の「東海市観光ビジョンの成果指標について」を使用し、観光の現状について説明した。

イ 重点プロジェクトについて【次第 4(2)】

佐藤統括主任から資料の「東海市観光ビジョン重点プロジェクト」を使用し、観光の現状について説明した。

中野委員： 工場夜景というコンテンツに関しては、当初は東海市民への周知がメインという印象が強かったが、テレビ愛知とのコラボレーション等、市外への発信が増えてきている状況である。外部から人を呼び込むためには、市民の認知や受入れ体制が重要であるため、そのステップを踏んで段階的に発展してきたものと考えられる。

芦木委員： 資料1「東海市観光ビジョンの成果指標について」の市内宿泊施設の宿泊者数について、数字の上がり下がりのみしか見られないが、客単価が上がっているのであれば、ホテルとして業績としては上がっている可能性がある等の判断が難しい。

中野委員： ホテルとして、宿泊者数が単純に減少している部分もあるし、客単価が増えている部分もあると考えられる。ただし、市内宿泊施設の宿泊者数については、観光客のみの数値ではないため、東海市に訪れている人の指標としては参考になるが、観光に関する指標として判断することは困難である。

芦木委員： 「東海市観光ビジョンの成果指標について」単年度ごとの比較で管理を行っているが、リニア中央新幹線の開通や西知多道路の高規格化等を踏まえた長期目標を示していただくことにより、市内事業者等観光に関わる人たちが動きやすくなるのではないかと。

高谷委員： アンケートで東海市と言えば「日本製鉄株式会社名古屋製鉄所」と回答として挙げられる。弊社の事業が直接観光業を担っているわけではないが、市と連携して様々な取り組みを行っている。例年の工場見学&夜

景遊覧クルーズの受入れや、令和8年度に初めて200m集合煙突のライトアップを行うものである。

西本委員： 農業観光として、市と連携した取り組みとして、農業センターのトマトや向山の夕焼け姫等、市と連携した取り組みがある。いちごやブルーベリー、イチジク、ブドウ等、市の観光と連携できる部分は、まだあると考えられる。

例えば、夜景遊覧クルーズの際に、カップに入れたブドウや冷凍いちご等のフルーツ販売を行うことは可能か。

事務局： 販売自体は可能であるが、食品の取り扱いもあるため納品のタイミングや販売方法・精算方法等、諸条件を整理する必要がある。別途ご相談の機会を設けたい。

伊藤副委員長： 大学の卒業生から、東海市の大学に通っていたのに地域の行事等に参加をしていなかった。また、もっと経験しておけばよかったという声があった。令和8年度から東海市のイベントについて、チラシ、ポスターの配布・掲示を行っている。様々な経験をすることで将来家族を連れて遊びに戻ってくる等、観光につながってくるのではないかな。

鈴木オブザーバー： 東海市が保有する資源を5つのプロジェクトに分けて事業設計している点は、分かりやすい構成である。指標について、単年度ごとの比較による管理では因果関係が判断しづらいとの意見があったが、愛知県の観光戦略においても同様の課題を抱えている。

愛知県全体の状況として、コロナ禍以前と比較して来訪者数は増加している。それ以上に消費単価が伸びており、その傾向は特に外国人来訪者において顕著である。物価高騰によるインフレ率等の要因を排除して考えても、この傾向は確認できる。国が実施している「インバウンド消費動向調査」の結果によれば、愛知県への外国人来訪者は体験活動にける金額が少ない状況にある。来訪者の約6割がビジネス客という客層も関係しているかもしれないが、この点は今後の伸びしろであると捉えている。

また、愛知県民による観光推奨意向が低い傾向にあることも課題である。観光の推奨意向を高めることは重要なテーマであると考えられ

る。市民に観光資源を知ってもらうことは、その実現に向けた重要な一歩である。関連して、県民が愛知県の魅力を十分に感じておらず、観光への関心が低いというデータもある。一因として、ものづくり地域であることが考えられるが、県民の郷土愛を醸成するためにも、県民に向けた愛知県の観光資源を再発見する事業が必要である。

遠藤委員長： 市外からの来訪はどのような状況であるか。

事務局： 各種イベントについて、来訪者の居住地を明確にすることは困難であるが、令和7年度の事前申込制である工場夜景遊覧クルーズについては、約3割が市内、約7割が市外という状況である。また、テレビ愛知とタイアップが実現してから、東海3県からの参加者が増加してきているものである。

遠藤委員長： クルーズ参加を契機として、再訪につながっているのか。

事務局： 令和7年度の工場夜景遊覧クルーズ参加者は、全体の9割弱が初めての参加、1割強の方が2回目以降でありリピーターの方が一定数いた。1日2便あるため、先に食事をする、クルーズから帰ってきて市内で食事をする等のアンケートの回答があった。

中野委員： 工場夜景遊覧クルーズに旅行代理店への案内はあったか。

事務局： 令和4年度に、各旅行代理店に案内をして乗船していただき、ご意見をいただいた。

遠藤委員長： 認知度拡大を図る施策はどのようなか。

事務局： 定量的に把握する手段がないため、市外の各種イベント等に参加する際に、意見をいただく内容で把握しているものである。

遠藤委員長： 長期的な環境変化を踏まえて、観光あるいは産業振興のプランの考えはどのようなか。

事務局： 長期的なプランとしては、総合計画があり、周辺整備等の社会環境インパクトの整理をしている。今後、第8次総合計画の中で整理すべき項目と考えている。総合計画の下位計画として、産業振興、また、観光振興の計画を定めていくものである。現在の観光ビジョンは令和9年度の計画期間、また、産業振興ビジョンについては、令和10年度までとなっている。観光と産業の連携の必要があると認識をしているため、次期

産業振興ビジョンに観光の要素を取り入れて産業振興ビジョン全体の中で、観光の長期的なビジョンについても、明確にしていく予定である。

遠藤委員長： 日本製鉄株式会社名古屋製鉄所への来訪者については、市内観光につながっているのか。

高谷委員： 業務中に来訪されているため、前後で東海市の施設等に立ち寄ることは少ないと考えられる。

芦木委員： 観光をきっかけに東海市を知ってもらい、東海市に住んでもらうという関係人口を増やすことが重要である。観光ビジョンを推進する目的はどのようなか。

事務局： 行政の最上位計画として総合計画がある。行政の目的、目標としては市政発展、市民サービス、市民福祉の向上がある。それを、観光という分野で市政発展を図っていこうとすると、1つは認知度向上であり、非常に大切なコンテンツである。大きな目標としては、東海市がこれからも元気なまちであるために、選んでいただけるまち、住んでいただけるまち、働きにきていただけるまちを目指していくことが大きな目標である。

遠藤委員長： 現状はどのように評価しているのか。

事務局： 大局的な評価が現状できていないものである。一方で、芦木委員にプロデュースをお願いしている桜まつり等については、市内外の若い世代にも高い評価をいただいております、若い世代に認知をされる重要性を認識している。

遠藤委員長： シビックプライドの醸成につながっているのではないかと。

事務局： 市内の若い世代が遠方から友人を誘って遊びに来ることは、大切なシビックプライドを考えている。

遠藤委員長： 創造の杜交流館の現状はどのようなか。

事務局： 映像をテーマにした社会教育施設である。また、山車文化の発信拠点でもある。尾張横須賀まつりの際も、創造の杜交流館を通過して会場に向かう等の予定をしているものである。利用者数については把握していないものである。

遠藤委員長： 東海市では様々な分野がそれぞれ独自に活動している。多様な要素

が点在しているため、観光というキーワードで横断的につなげようとした際に統合しづらい状況にある。東海市はものづくりが盛んな地域であるため、観光という意識が醸成されにくい面があるかもしれないが、地域の良さを改めて見直すことが重要である。

9 その他

(1) 今後の事業予定

今後の事業予定について説明した。(リアル謎解きゲーム、ハロウィータウン、もみじまつり、ウィンターイルミネーション)

(2) 観光ビジョンについて

観光ビジョンの計画期間を1年延長し、令和10年度までとする。次期産業振興ビジョンとして進行管理を行っていく方針である。